国際研究論叢　23（1）：145～170，2009

翻　訳

ドイツ諸ラント史辞典
―中世から現在までのドイツ領邦と帝国直属家門―　②

翻訳：鎌　野　多美子*

Historisches Lexikon der deutschen Länder
― Die deutschen Territorien vom Mittelalter bis zur Gegenwart ―

Tamiko Kamano *

Anhalt - Aschersleben　アンハルト - アシャースレーベン（伯領）

アシャースレーベンは11世紀に初めて言及されている（アスツェゲーレスレーベ）。12世紀以降、それはアスカニアー家の領地内に存在するシュヴァーベンガウの北部に位置する伯領の民会場（ディングシュタット）であった。アンハルト一門内での遺産分割により、1252年にアンハルト - アシャースレーベン系が生まれた（1315年に絶えた）。伯領（アンハルト - ）アシャースレーベン（アンハルト - アシャースレーベン）は、（1322年）ハルバーシュタット高司教区本部、1648年にはブランデンブルク、それ以外の地はアンハルト - ベルンブルク（兄系）にわたった。

Anhalt - Bernburg　アンハルト - ベルンブルク（諸伯、侯領、公領）

1138年に城塞として初めて言及されているザール下流河畔のベルンブルクの名に因んで、アンハルト一門の様々な系はそう名乗った。兄系は1252年に出現した。そして1315年ないし1322年にアンハルト - アシャースレーベン系の土地の一部を相続した後、1468年にはアンハルト - ケーテンのジークムント系に受け継がれた。弟系は1603年に生まれた。弟系は、数ある中でも以下の役所管轄区域、バレンシュテット・ヘックリンゲン・プレッツカウ・ホイム・ゲルンローデ・ハルツゲローデ・ベルンブルクを、手に入れた。この弟系から、1630年にアンハルト - ベルンブルク - ハルツゲローデ系が分化した。かれらの土地は、1709年にその血筋が絶えた時、弟系に戻ってきた。その後、1707年にアンハルト - ベルンブルク - シャウムブルク（ - ホイム）が（1812年まで）分化した。1793年にアンハルト - ツェルプストの遺産から、東部の役所管轄区域コスヴィヒと役所管轄区域ミューリンゲンはアンハルト - ベルンブルクにわたった。1806年に公領に上昇、1807年にライン同盟に、1815年にドイツ連邦にラントとして加入したアンハルト - ベルンブルクは、1863年にその一門が死滅した時、アンハルト - デッサウにわたった。

＊かまの　たみこ：大阪国際大学現代社会学部教授〈2009.6.4受理〉

Anhalt - Bernburg - Harzgerode　アンハルト - ベルンブルク - ハルツゲローデ（諸侯）

993年ないし994年にニーンブルク修道院の市場集落（マルクトジードルング）として建設されたウンターハルツのハルツゲローデの名称をとって、1630年から1709年まで存在したアンハルト - ベルンブルクの諸侯の系はそう名乗っていた。

Anhalt - Bernburg - Schaumburg - (Hoym)　アンハルト - ベルンブルク - シャウムブルク（- ホイム）（諸侯領）

アンハルト - ベルンブルク - シャウムブルクの諸侯は1707年にアンハルト - ベルンブルクから分化し、ホルツァッペルとシャウムブルクの諸伯の遺産を相続し、それゆえアンハルト - ベルンブルクの諸侯の系の中でも資産家であった。しかしアンハルトの土地の一部はアンハルト - ベルンブルク - シャウムブルクの一族の消滅後、1812年にアンハルト - ベルンブルクに戻った。

Anhalt - Dessau　アンハルト - デッサウ（諸伯、侯領、公領）

エルベ川に注ぐムルデ川の河口付近の、1213年以後に初めて言及されている、デッサウの名称をとって名付けられたアンハルト一門のアンハルト - デッサウ（兄）系は、1474年にアンハルト - ケーテンのジークムント系の分化によって生まれた。アンハルト - デッサウ兄系は、1562年にアンハルト-ケーテン兄系の土地を、1546年にツェルプスト系･プレッツカウ系･デッサウ系に分化した後、1570年までに、残りのアンハルトの土地を獲得した。1603年に長子ヨアヒム･エルンストでもって誕生し､1632年から1643年に分化し､1702年（レオポルト侯、古いデッサウ人）にオラニエ家出自の母から豊かな遺産を相続し、18世紀には文化的に大変重要になり、1808年には公爵位を手に入れた、デッサウ周辺の土地（デッサウ、役所管轄区域ヴェーリツ・ラーデガスト・グレプツィヒ［グレブツィク］・ザンダースレーベン・フレックレーベン・グロースアルスレーベン）を所有するデッサウ弟系は、1863年までに、新たに、アンハルトの全ての土地（1793年にツェルプストを含むアンハルト - ツェルプストの北部分、1847年にアンハルト - ケーテンの持ち分、1863年にアンハルト - ベルンブルク）を統合した。しかし、デッサウ弟系は1918年11月12日に退位した。その結果、アンハルト公領からアンハルト共和国が生まれた。

Anhalt - Köthen　アンハルト - ケーテン（侯領、公領）

1115年以後初めて言及されたスラブ人の集落（オルト）ケーテンの名をとった―アスカニアー家がそこに城塞を築城した―アンハルト - ケーテン兄系は、1252年に生まれた。1307年ないし1319年にアンハルト - ケーテン兄系は、領地ツェルプストをアルンシュタイン - バルビーの諸伯から獲得した。その系は1396年にツェルプストをもつジークムント系と、ケーテンをもつアルブレヒト系とに分化した。アンハルト地域統合の後（1570年）にヨアヒム･エルンストの末息子でもって、1603年にアンハルト - ケーテン弟系が生まれた。その系の地域はケーテン市とニーンブルク市、ケーテン役所管轄区域とニーンブルク役所管轄区域、ヴルフェン役所管轄地、ヴァルムスドルフ伯領を包括していた。その系は、1665年の滅亡

によって、アンハルト - プレッツカウ系に相続された。それ以降、この系は自分の都合でアンハルト - ケーテンを名乗った。このアンハルト - ケーテンはアンハルト - ツェルプスト系の滅亡時、1793年にロスラウ周辺のその系の中規模の大きさの部分を相続した。アンハルト - ケーテンは、1795年にプレス傍系に分化した。1807年にアンハルト - ケーテンは公領となり、ライン同盟に加入し、1810年にナポレオン法典（コーデ·ナポレオン）を導入し、そして1811年には、1812年に排除することになる憲法を公布した。1815年にそれはドイツ連邦に加入した。政権の座についた傍系プレスの下で、それは、1828年にプロイセン関税同盟に加入した。1846年にそれはプレスを売却した。最後の侯の死後、1847年に、アンハルト - ケーテンはアンハルト - ベルンブルクとアンハルト - デッサウの共同統治下に入り、1863年にはアンハルト - ベルンブルクとともにアンハルト - デッサウにわたった。

Anhalt - Köthen - Pless　アンハルト - ケーテン - プレス（侯領）

1765年にアンハルト - ケーテンから傍系プレス（アンハルト - ケーテン - プレス）は分化した。この傍系が政権の座についた後、アンハルト - ケーテンは1828年にプロイセン関税同盟に加入した。1846年ないし1847年にプレス侯領はホッホベルク諸伯とフュルステンシュテイン諸男爵に売却された。

Anhalt - Plötzkau　アンハルト - プレッツカウ（Anhalt - Köthen［ - Plötzkau］　アンハルト - ケーテン［ - プレッツカウ］）**（諸侯）**

1049年に城塞として初めて言及され、1435年にアンハルトにわたったベルンブルク近郊のプレッツウカウの名称に因んで、1603年に生まれたアンハルト諸侯の系はアンハルト - プレッツカウと名乗った。その系は1665年にアンハルト - ケーテン系の土地を相続し、それ以降アンハルト - ケーテンを名乗った。

Anhalt - Schaumburg　アンハルト - シャウムブルク

参照アンハルト - ベルンブルク - シャウムブルク。

Anhalt - Zerbst　アンハルト - ツェルプスト（諸侯）

エルベ川とフレミング地方との間にあるヌーテ河畔のツェルプストは、948年に初めてスラブ人入植地として言及されている。のちに築城されたその城塞の名称をとって、アンハルト - ツェルプスト兄系（アンハルト - ケーテン）はそう名乗った。1307年ないし1319年にその城塞はアンハルト - ケーテン系にわたった。1570年のアンハルト全土の統一後、1603年にヨアヒム·エルンストの四男でもって、アンハルト - ツェルプスト弟系が生まれた。その弟系は1667年に領地イエーファーを相続の形で取得した。また弟系の土地（シュタット・ウント・アムト・ツェルプスト、ヴァルターニーンブルク、ドルンブルク、ロスラウ、コスヴィヒ、役所管轄区域ミューリンゲン）は、1793年に、アンハルト - デッサウ（ツェルプストを含む北部）、アンハルト - ベルンブルク（コスヴィヒとミューリンゲンを含む東部）、アンハルト - ケーテン（ロスラウを含む中部）、ならびにカタリーナ２世を経

てロシア（イエーファー）にわたった。

Anhaltinische　Fürstentümer　アンハルトの諸侯領

参照アンハルト。

Anholt　アンホルト（帝国直属領地）

12ないし13世紀にツーイレン（ズーレン）の騎士たちは、ボルケン近郊の城塞アンホルトを築城したと思われる。1347年にその城塞に隣接して、都市と呼ばれた開拓集落（ジィードルング）が出現した。それは1349年に完全な都市法を獲得した。1380年にアンホルト周辺に形成されたケルン高司教区本部とミュンスター高司教区本部とユトレヒト高司教区本部のあいだに位置していた、その領地は、ツーイレン（ズーレン）諸君主の女子相続人の結婚によってゲーメンの諸君主に、また1402年には遺産分割によって（ブロンクホルスト-バーテンブルク）ブロンクッホルスト - バーテンブルクの諸君主にわたった。かれらは1431年に皇帝ジークムントからアンホルトを封土（レーン）として授かり、ゲルデルンとオランダ議会に対して独立を守ることをしぶしぶ同意した。ニーダーライン - ヴェストファーレン帝国クライスに所属していた聖堂区規模のその領地は、結婚により、1641年にザルム（のちにザルム - ザルム）の諸侯にわたった。ザルム-ザルムの諸侯は、ライン川左岸のかれらの土地を損失した後、1793年ないし1801年に、1平方マイルの地域を包括するアンホルトを、失ったミュンスターの代償となる地域の行政所在地に格上げした。1810年にアンホルトはザルム侯領とともにフランスのものとなったが、1815年にプロイセン（行政区域ヴェストファーレン）に、その結果、1946年にノルトライン - ヴェストファーレン州にいきついた。

Annweiler　アンヴァイラー（帝国都市）

ランダウ近郊のアンヴァイラーは1086年に初めて言及されている。1117年頃それは交換によりシュタウフェン家にわたった。フリードリヒ２世は1219年ランダウに都市法を付与した。1330年に帝国都市アンヴァイラーはプファルツ（クーアプファルツ）に担保として与えられ、1410年にプファルツ - ツヴァイブリュッケンにわたった。1792年から1814年までアンヴァイラーはフランスの支配下にあり、1815年にバイエルンにわたり、1946年にラインラント - プファルツ州にきた。

Ansbach　アンスバッハ、Brandenburg-Ansbach　ブランデンブルク-アンスバッハ**（侯領、辺境伯領）**

アンスバッハは786年に初めて言及されている（オーノルディスバッハ）。そこに748年頃に創設されたベネディクト会修道院は、高司教区本部ヴュルツブルクにわたった。1228年にアンスバッハはドルンベルクの諸君主、つまり、かつてのシュタウフェン家の下級代官たちから、オエッティンゲン諸伯にいきついた。都市と修道院アンスバッハに対する代官職を、ホーエンツォレルンないしツォレルンの諸伯は1331年に購入した。かれらは1192年以降ニュルンベルクの城伯で、アーベンベルク（1199年ないし1200年頃）とアンデック

ス - メラーニエンの諸伯（1248年）の遺産を相続することにより、豊かな土地（アーベンベルク - カドルツブルク、アイシュ河畔のノイシュタット、ヴィンツスハイム、クロイセン［1251年にレーン］、バイロイト［1260年］）を手に入れていた。かれらはそれ以外にも、フィヒテル山地に位置するゼックスエムターラント（1292年にアルツベルク）と、クルムバッハ（1338年、ヴァイマール-オルラーミュンデ諸伯の遺産）、エアランゲン、ウッフェンハイム、クライルスハイム、フォイヒトヴァンゲン、ヴァッサートリューディンゲン（1368年）、グンツェンハウゼン、シュヴァーバッハ（1364年）、そして1323年以降ヴァイダの諸代官に割り当てられていた農場周辺地域（1373年購入）を獲得した。1385年にアンスバッハは首都となった。また1398年に領地アンスバッハは「オプ･デム･ゲビルク」（クルムバッハ、1604年ないし1662年バイロイト）と「ウンター･デム･ゲビル」（アンスバッハ）に分けられた。辺境伯領ブランデンブルク獲得後、1411年ないし1415年に、辺境伯の称号もアンスバッハ - バイロイトの諸侯にわたった。バイロイトは、1415年から1440年までと1470年から1486年までは、ブランデンブルクと同君連合であった。1486年にアンスバッハは辺境伯フリードリヒ７世、バイロイトはジークムントにわたったが、1495年に（1515年まで）アンスバッハのものとなった。1525年にその辺境伯は、ローテンブルクに、多数の村々を手渡すことを強いた。1521年から宗教改革が導入された。1557年に侯領クルムバッハがアンスバッハに戻ってきた。1603年にフランケン地方のホーエンツォレルン兄系が絶えた時、両辺境のホーエンツォレルン家は、契約によって定められていた両辺境伯領を相続した。そのときクリスティアン辺境伯は自らの居館をプラッセンブルクからバイロイトへ移した。1741年に伯領ザイン - アルテンキルヒェンはアンスバッハのものとなった。1769年以降、バイロイト系の滅亡につづいて、アンスバッハとバイロイトはアンスバッハ系に統治された。1783年フッテン家に獲得された若干の土地（アスバッハホーフ、ゴルラッハオストハイムの一部と、プファーレンハイムの一部）所有のために、フランケン騎士クライスのオーデンヴァルト･カントンにも、アルトミュール･カントンとシュタイガーヴァルト･カントンにも所属していた地域（住民19万5000から20万人で68平方マイルのアンスバッハ、住民18万6000から25万人で72平方マイルのバイロイト）は1791年にプロイセンに売却された。プロイセンは帝国騎士領、ドイツ騎士団、バンベルク高司教区本部とアイヒシュテット高司教区本部の諸権利を廃止し、ヴィンツハイム帝国都市・ヴァイセンブルク帝国都市・ニュルンベルク帝国都市からラント地域（ラントゲビート）を剥奪した。その（シェーンブルンの）条約によりアンスバッハは1805年バイエルンに、バイロイトは（ティルジットの条約により）1807年フランス、1810年にはバイエルンに、ザイン - アルテンキルヒェンは1802年にナッサウ（ナッサウ - ウージンゲン）そして1815年にはプロイセン（ライン地方）（ならびに1946年にラインラント - プファルツ州）にきた。

Ansbach　アンスバッハ（帝国騎士）

16世紀初期にアンスバッハ家はフランケン騎士クライスのオーデンヴァルト･カントンに属していた。

Ansbach - Bayreuth　アンスバッハ - バイロイト（侯領、辺境伯領）
参照アンスバッハ、バイロイト。

Antwerf　アントヴェルフ（アントヴェルペン周辺のガウ）

Antwerpen　アントヴェルペン（辺境伯領）　フランス語でアンヴェール。
既にローマ人によって入植されていたシェルデ河畔のアントヴェルペンは726年に初めて言及されている。それは遅くとも1008年には一辺境伯の所在地であった。11世紀末にアントヴェルペンはブラバント、1357年ないし1430年にブルグント公領にわたった。その辺境伯領の部分はブラバントとスペイン領ブルグントを経由してブルグント帝国クライスに所属していた。

Anwanden　アンヴァンデン
参照ディーター・フォン・アンヴァンデン。

Anweil　アンヴァイル（帝国騎士）
アンヴァイル家は1548年から1663年までシュヴァーベン帝国クライスのネッカー･カントンの構成員であった。

Aosta　アオスタ（公領）
西アルプス山脈に位置し、さしあたりケルト - リグリア族のザラッセン人によって居住されていたアオスタ渓谷は紀元前25年に、その村落（オルト）アオスタを創設したローマ人に征服された。東ゴート族、東ローマ人そしてランゴバルド族を経由して、それはブルグント王国のものとなり、1025年にはヘンベルティーナ家の伯一族のものとなった。その一族は1125年以降、ザヴォイアと名乗っていた。1191年にそれは自由（独立）証書を獲得し、それに基づいてアオスタは16世紀初期において強化され、1773年まで続いた自治権を手に入れた。19世紀初期にその公領アオスタは首都トリノとともに、一種の橋を、出身地サヴォイアとピエモントのあいだにつくった。ザヴォイアのフランスへの帰属により､アオスタは、1860年にイタリアのトリノから管理される国境地域になった。1926年にイタリア内で、頂点に知事を、そしてフランス語を話す住民のための自治権をもつ行政区域アオスタが生まれた。

Apafi　アパフィ（帝国侯）
ジーベンビュルゲン侯、1694年以降金利子でウィーンに生活していたミヒャエル２世アパフィは、1710年に帝国侯に上昇した。

Appeldorn　アッペルドルン（壮麗地（ヘルリヒカイト））
カルカールの東部に位置する領地アッペルドルンはクレーヴェ公領（クレーヴェ郡長の

クライス）に属していた。参照プロイセン、ノルトライン - ヴェストファーレン。

Appenheim　アッペンハイム（共同相続人）

ペータ・フォン・アッペンハイムでもって、13世紀初期に、ボランデンの諸君主の近くにおいて貴族一門が出現した。ボランデンは1444年に共同相続地ベヒトオルスハイムに関与していた。

Appenzell　アッペンツェル（カントン）

アッペンツェルは1071年に初めて言及されている（アッバツェラ、アッバティス・ツェラ）。この地の大半は中世中期にザンクト・ガレン大修道院の支配下にあった。その大修道院は1345年から1381年まで、代官職とそれに伴う（帝国を急速に強めた）領邦君主権を帝国から手に入れ、それを強化しようとした。フントヴィル、ウーアネッシュ、ガイス、トイフェン、シュパイヒャー、トローゲン、ヘリザウという地方自治体とともに、アッペンツェルは、シュヴァーベン都市同盟、ザンクト・ガレン市、そしてシュヴィーツと同盟を結び、アッペンツェルの戦いでの勝利によって、1377年から1429年までは政治的独立を手に入れていた。1411年以降アッペンツェルはスイス盟約団体に所属の村落（オルト）であった。1442年にアッペンツェルは帝国直属地位を獲得、1445年ないし1460年に代官所在地（フォークタイ）ラインタールと代官所在地ラインエック（ラインエッグ）（1490年まで）を手に入れ、1452年には准都市法（ミンダーレヒト）をもつ村落として、同盟に迎え入れられた。1513年12月17日に、それはスイス盟約団体の全権利を有した13番目の構成員となった。1522年から1530年までに、アウサー・ローデン（教区民）の大部分は宗教改革に参加し、その結果、1597年にプロテスタントのアッペンツェル - アウサーローデンとカトリックのアッペンツェル - インナーローデンに分かれた。それらは1798年にヘルヴェチア共和国のゼンティス・カントンに統合された。しかし1803年ないし1815年に、スイス盟約団体の半カントンとして再び分かれた。

Appenzell - Außerrohden　アッペンツェル - アウサーローデン（半カントン）

アッペンツェル - アウサーローデンは1597年の分割により生まれた、首都ヘリザウを含むアッペンツェル・カントンのプロテスタントの半カントンである。1997年にその地方自治体は、地方自治を実行するのが困難だという事実の結果、時代おくれとして放棄された。

Appenzell - Innerrhoden　アッペンツェル - インナーローデン（半カントン）

アッペンツェル - インナーローデンは1597年の分割により生じた、首都アッペンツェルを含むアッペンツェルのカトリックの半カントンである。

Appold　アッポルト（帝国騎士）

アッポルト一族は18世紀にトレンデル所有のために、フランケン帝国クライスのアルトミュール・カントンに属していた。

Apremont　アプレモント（領地）

ロートリンゲンのアプレモントの諸君主は13世紀に、結婚やレーン授与により諸伯に上昇した。かれらはメッツとヴェルダンの司教座を占有した。領地アプレモントは14世紀に公領バールに属していた。

Aquensis　pagus　アクエンシス・パーグス（アーヘン周辺の地域）

Aquileja　アクヴィレーヤ（総大司教区、大司教区本部）中高ドイツ語でアグライ、アグラー。

北イタリアのアドリア海付近に位置するアクヴィレーヤは紀元前181年、ローマ人の植民地として創設された。ヴェネチア、イストリエン、ヴェストイリュリア、ノリクム、ラエティア･セクンダを支配していた、314年以降証明可能な司教区アクヴィレーヤは、５世紀初頭以降大司教区（エルツビストゥム）としての諸権利、558年ないし568年以降は総大司教（パトリアルヒ）の称号を要求した。それは798年にゼーベン司教区を失ったが、イストリエンに対する首都位大司教の係争権を手に入れた。アクヴィレーヤが位置する辺境地方フリアウルは、のちにバイエルン諸公の影響下に陥った（952年）。その結果、いまや帝国領土に位置するアクヴィレーヤ総大司教区は北イタリアに存在するドイツ権力の拠点となった。1027年、それはケルンテン下で従属関係から解放された。ハインリヒ４世は1077年その総大司教にフリアウル（公領）とイストリエン（辺境伯領）とクライン（辺境伯領）を譲渡し、かれを帝国侯にした。シュタウフェン時代の終焉に、アクヴィレーヤはその重要性をなくした。1418年ないし1421年にそれは所有する領土とともにヴェネチアに征服された。1445年には世俗の支配権すべてをヴェネチアに譲渡した。16世紀にアクヴィレーヤはオーストリアにわたった。1751年にその総大司教区（パトリアルヒャート）はマリア･テレジアの要請で教皇によって解体され、1752年にはウンディーネ大司教区とゲルツ大司教区で補償された。

Aquino　アクヴィーノ（帝国侯）

スペインの外交官であるジョバァンニ･アクヴィーノは、1626年、皇帝フェルディナントにより帝国侯に上昇した。

Aragona　アラゴーナ（帝国侯）

1648年に、スペイン王妃の執事であるディエゴ･デ･アラゴーナは帝国侯に上昇した。

Aragouwe　アラゴウヴェ

参照アールガウ。

Arberg　アルベルク

参照シェンク･フォン・アルベルク。

Arbongau　アルボンガウ（ガウ）

Arco アルコ（伯領）

1124年に初めて証明可能であり、トリエント司教に忠誠義務のあった、バイエルンの最上級貴族（ロマン地方の出身？）に数えられる一門は、ガルダ湖の北岸に位置するアルコに因んで、アルコと名乗っていた。1413年にアルコは皇帝ジーギスムントから帝国伯位を授与された。アルコは幾つかの激戦の後、帝国レーンの特徴を保持しながらも、帝国直属地位を、1614年までティロールの領邦君主たちに失った。

Ardennergau　アルデンナーガウ

Ardey　アルダイ（貴族領主、領地）

ハールシュトラングとルール地方との間に、アルダイの貴族たちは領地アルダイをつくった。それは、その家系の絶滅とともに1318年にマルク伯領にわたった。参照プロイセン、ノルトライン - ヴェストファーレン。

Are　アーレ（諸伯、伯領）

アイフェル高原のアルテンアール近郊の城塞アーレは、1070年頃シュタインフェルト修道院を創設したアーレ諸伯の居所であった。かれらは1087年になって初めて証明可能で、リンブルク家の出自である。かれらはテュルピヒ - アイフェルガウにその伯領、プリュームの代官職、同じく北リンブルクとアイフェル高原に完全私有地を所有していた。かれらは1140年頃にアーレ - ホッホシュターデン系（1246年まで）とアーレ - ニュルブルク系に分化した。また1200年頃にはさらに分化した（アーレ - ヴィックラーツ系とアーレ - ノイエンアール系）。その内アーレ - ホッホシュターデン系は1246年、1589年に最後のアーレ - ノイエンアール系が死滅した。

Are - Hochstaden　アーレ - ホッホシュターデン（諸伯）

アーレ-ホッホシュターデンの諸伯は、グレーフェンブロイヒ近郊の城塞ホッホシュターデンに因んで命名された、1140年頃に生まれたアーレ諸伯の系であった。かれらは1246年に死滅し、かれらの土地は部分的にベルクハイムの諸君主にわたり、かれらを経由して1312年にユリッヒの諸伯にわたった。

Are - Neuenahr　アーレ - ノイエンアール（諸伯）

アーレの諸伯の、1589年に滅亡した系である。

Are - Nürburg　アーレ - ニュルブルク（諸伯）

アーレ - ニュルブルクの諸伯は1140年頃にアーレの諸伯から分化した系である。

Are - Wickrath　アーレ - ヴィクラーツ（諸伯）

アーレ - ヴィクラーツの諸伯はアーレ諸伯の一系である。

Arenberg　アーレンベルク、Aremberg アーレムベルク**（君主、諸伯、諸公）**

12世紀中頃アールヴァイラー近郊のアールガウに、アール河畔の城塞アーレンベルクは建てられたと思われる。その城塞に因んでそう名乗ったことが、1166年に初めて言及されている、1117年から1129年に登場してきたと思われるアーレンベルクの自由貴族（ハインリヒ・フォン・アーレンベルク）の一族である。かれらはアール上流河畔、エルフト、ジーク沿いに、またヴェスターヴァルト山地に数多くの土地があり、暫定的にケルン城伯の職務を行使していた（1279年にその大司教に売却）。その一族から、13世紀前半にラインラントのヴィルデンブルク（ヴィルデンフェルス）一門が分化した。本家の男系は1280年（1281年以前）に絶えた。後に帝国直属となったかれらの土地は（最後の男系相続人の娘）女子相続人メヒティルトの結婚（1299年）によって、アーレンベルク諸君主の２番目の系を創始した、マルク諸伯にわたった。その２番目の系はベルギーとネーデルラントとロートリンゲンに土地を手に入れたが、多くの系（ヌフシャトー、ロシュフォール、ブイヨン諸公）に分化した。1547年に２番目の系が絶え、アーレンベルク城塞とアーレンベルク領地は最後のマルク伯の妹の結婚によって、1480年にバルバンコンを相続した系にわたった。かれらは1549年にアーレンベルク姓を受け継ぎ帝国伯、1576年には帝国諸侯（侯化した伯）に上昇した。この系統つまり３番目の系は1606年にフランスから領地アンギャンを、1612年にクロイ諸公の遺領からブラバントの公領アールショト（アエルショト）を獲得し、それ以外にも数多くの土地を獲得した。1644年にこの３番目の系はハープスブルク家への忠誠の功により、公称号を手に入れた。1801年にその系は、ボンの南西部に位置する、クーアライン帝国クライスに所属する、面積４平方マイルで人口2900人のその公領を、フランスに失った。1803年、その系はライン川左岸の土地を損失した代償として、レクリングハウゼン（ケルン大司教区本部から）とエムス中流域河畔のメッペン管轄区域（ミュンスター高司教区本部から）をもらった（面積660平方キロメートルで人口７万6000人）。そこから、新しい公領アーレンベルク（アーレンベルク - メッペン）が形成された。それは1806年にライン同盟に加盟し、その際にクロイ公領に対する統治権も手に入れた。レクリングハウゼンは1810年にベルク大公領、1815年にプロイセンにわたった。メッペンは1810年にフランスに併合され、1815年にハノーファーに配属された。ハノーファー内に位置する（1806年に皇帝直属地位を失った貴族の）土地メッペンは、1826年に、アーレンベルク - メッペン公領という名称を獲得した。1866年にそれはハノーファーとともにプロイセンにわたった。プロイセンは1875年に（1806年に皇帝直属地位を失った）貴族の諸権利を剥奪された。参照ニーダーザクセン。

Arenberg - Chimay　アーレンベルク - ヒマイ

参照アーレンベルク、ヒマイ。

Arenberg - Ligne　アーレンベルク - リグネ
参照アーレンベルク、リグネ。

Arenberg - Meppen　アーレンベルク - メッペン
参照アーレンベルク、メッペン。

Arenfels　アレンフェルス（帝国騎士領）、Ahrenfels　アーレンフェルス
ジンツィヒ対岸のライン川右岸に立つ城塞アレンフェルスは、1258年ないし1259年に、代官所在地ヘニンゲンにあるイーゼンブルク - アレンベルク系の居所となった。その系が絶えた（1371年）後、トリーア大司教区本部は封建領主として最後の君主の娘婿２名（ヴィート伯ヴィルヘルムとイーゼンブルク伯ザーレンティン）からアレンフェルスの城塞と領地を獲得した。1504年に城塞と領地は再びイーゼンブルク（イーゼンブルク-グレンツァウ）に戻ってきた。イーゼンブルク - グレンツァウの諸伯が死に絶えた後1664年に、トリーアは、復帰したレーンとしてアレンフェルスを没収し、それを1670年に下位領地（ウンターヘルシャフト）としてフォン・デア・ライエン家にやった。アレンフェルスはライン騎士クライスのニーダーラインシュトローム･カントンに税を納めていた。1815年にアレンフェルスはプロイセン、1946年にラインラント - プファルツ州にいきついた。

Arezzo　アレッツォ（都市国家）
都市共和国アレッツォは、ランゴバルト人のガスタルデンと、フランク族の諸伯と司教に支配された後、1098年以降徐々に、前225年にローマに征服されたアルノ上流河畔のアレティウムの後継者になっていった。すでに1337年に、新たに1384年にアレッツォは売却によりフローレンツ［フィレンツェ］にわたった。

Argen　アルゲン（領地）
18世紀末に領地テットナングと領地アルゲン（両方併せて面積６平方マイル）はオーストリア経由でシュヴァーベン帝国クライスに属していた。参照テットナング、バーデン - ヴュルテンベルク。

Argengau　アルゲンガウ（ガウ）

Aringon　アリンゴン　（アリングン、ライネ河畔のガウ）

Arlenningerhundari　アルレンニンガーフンダリ

Arles　アルル（帝国都市）
ローヌ下流河畔のアルルは、ケルト人のザルヴィーア家とギリシアのマッシリアを経由してローマにわたった。ローマはシーザの治下、植民地ユリア･パルテナ･アレラーテ･ゼ

クタノルムを建設した。３世紀以降それは司教の居住地となり、395年にガリアの筆頭地、400年頃に大司教の居住地となった。536年にその場所はフランク族のものとなり、879年に王領プロヴァンスの筆頭地となった。10世紀に王領になったブルグントとともに、アルルは、－アレラートの中で－1033年に帝国にわたった。アルルの市民は1220年に、921年以降存在する大司教の支配を払拭した。その結果、アルルはシュタウフェン家の治下（1237年）帝国都市になった。早くも1239年にはその都市自治体（シュタットゲマインデ）（として）の自由は終った。1251年にアルルは、伯であるカール・フォン・アンジューに屈服しなければならなかった。そして1481年にプロヴァンス伯領とともにフランスにわたった。

Arnegg　アルネック（領地）

ウルムの西に位置するブラウ河畔のアルネックは、元来、ディリンゲンの諸伯のレーンだったと思われる。その城塞の周りに形成された領地は、1338年に、ヴュルテンブルク諸伯と、自分の持ち分を後にヴュルテンブルクに売却したウルム市民ハンス・フォン・シュタインを通して、ウルムのゼヴェレール家によって獲得された。のちにその領地はアルネックのシュタイン家に、1410年にシュタディオンの諸君主に担保として与えられた。1470年にかれらはそれを手に入れた。1700年にそれは騎士団管轄区域エルザス・ウント・ブルグントのドイツ騎士団管区アルツスハウゼン、1806年にはヴュルテンベルクにわたり、その結果、1951年ないし1952年にバーデン - ヴュルテンベルク州にいきついた。

Arnheim　アルンハイム

参照ゲルデルン。

Arnim　アルニム（帝国騎士）

16世紀前半以降、アルニム家はフランケン帝国クライスのゲビルク・カントンに属していた。

Arnsberg　アルンスベルク（伯領）

11世紀中頃ヴェルルのベルンハルト２世はケルン-パーダーボルン街道とエッセン-カッセル街道の交差点に、ヴェストファーレンのアルンスベルク近郊のその「古い城塞」を建設した。ルーポルト・フォン・ヴェルル（1089年没）がその古い城塞を遺産としてケルン大高司教区本部に遺した後、コンラート・フォン・ヴェルルが1060年頃に新しい城塞をルール上流河畔に建てた。その新城塞はその村落の名に因んでアルンスベルクと名づけられた。その新城塞の名称に因んで、11世紀から12世紀への転換期に（1082年、コンラート・フォン・アルンスベルク）ヴェルル諸伯の本家はそう名乗った。1102年にフリードリヒ・デル・シュトライトバーレ（喧嘩）伯は、アルンスベルク城塞を含むアルンスベルク伯領の半分をケルン大司教区本部に失ったので、アルンスベルク伯領は、北ザウアーラント――裕福なメシェーデ修道院を含む――に制限された。1124年ないし1139年にそれは女子相続人を経由して相続の形で、その時点からアルンスベルクを名乗り、アルンスベルク諸伯の弟系を創

設した、クイク（クイジク、クイック）のネーデルラントの伯一族にわたった。12世紀にかれらはリートベルクの諸伯に分化した。1167年にかれらはケルン大司教区本部とレーンによる従属関係になった。1371年にかれらが滅亡する前、最後の伯ゴットフリートは1368年にアルンスベルクをケルン大司教区本部に売却した。アルンスベルク伯領はそれ以来、ケルン大司教たちのヴェストファーレン公領の重要部分を成した。アルンスベルクはヴェストファーレン公領の首都となった。1803年にアルンスベルクはヘッセン-ダルムシュタット、1816年にプロイセン、1946年にノルトライン - ヴェストファーレン州にわたった。

Arnsburg　アルンスブルク（修道院）

1151年にコンラート・フォン・ハーゲンは、修道院アルテンブルクを建立した。1197年以後それは１キロメートルほどヴェッター川の渓谷に移動され、1984年に発掘された新城塞の名に因んで、アルンスブルクと改名された。1802年にそれらの土地はゾルムス - ラウバッハ、その後ヘッセンのものとなった。参照ヘッセン。

Arnstadt　アルンシュタット（領地）

ゲーラ川へ注入するヴァイセ川の河口、昔の開拓村落のあとに、農場が存在していた。それを、ヘーデンは704年にユトレヒトの司教に与えた。その司教はそれを726年にエヒターナッハに委譲した。そこからアルンシュタットは後にヘアスフェルトにわたった。代官たちは、ケーフェルンブルク諸伯であったと思われる。かれらはアルンシュテットをテューリンゲン方伯にレーンとして委ねた。1302年にその方伯はホーンシュタインの諸伯にレーンを授与した。1306年にケーフェルンブルクの諸侯と姻戚関係にあるオルラーミュンデの諸伯はアルンシュテットを売却し、1332年にはホーンシュタインの諸伯がアルンシュタットをシュヴァルツブルクの諸伯に売却した。のちに領地アルンシュタットはシュヴァルツブルク諸伯のヴァイマールのレーンと見なされた。参照シュヴァルツブルク - アルンシュタット、テューリンゲン。

Arnstein　アルンンシュタイン（諸伯、領地）

シュトイスリンゲン諸君主のシュヴァーベン一門の出身である、アシャースレーベンの南東部に位置するハルケローデ近郊のアルンシュテットの貴族君主たちは、1135年に城塞アルンシュタインを建設し、そして13世紀以降アルンシュタイン諸伯と名乗っていた。1080年から1180年に、教会レーン、また代官権、開墾権、鉱山権、貨幣鋳造権、裁判権に基づいてノルトハルツ山地に建設されたアルンシュタイン家領地は、典型的な「自由地伯領」と見なされていた。12世紀には多くの傍系が生まれた。本家は1292年ないし1296年頃、兄弟３人がドイツ騎士団に入ったので絶えた。アルンシュタインの城塞と領地は1294年に、かれらと姻戚関係にあるファルケンシュタイン諸伯に、14世紀中頃レーゲンシュタイン諸伯に、1387年にマンスフェルト諸伯に、1786年にクニッゲ諸男爵にわたった。帝国直属のアルンシュタイン系（アルンシュタイン - ルッピン）とバルビー系（アルンシュタイン - バルビー）は、それぞれ1524年と1659年に滅亡した。

Arnstein　アルンシュタイン（修道院）

1052年以降ラーン下流河畔の自らの城塞アルンシュタインの名称に因んで、そう名乗っていたアインリヒガウの最後の伯は、1139年にその城塞をプレモントレ会員たちに大修道院として寄贈した。この修道院は1790年頃にゼールバッハとヴィンデンを所有していたため、ヴァイネールと共に、ライン騎士クライスのミッテルラインシュトローム･カントンに属していた。1803年にそれはナッサウ（ナッサウ - ヴァイルブルク）にわたり、その結果、1866年にプロイセン、1946年にラインラント - プファルツ州にいきついた。

Arnstein　アルンシュタイン（帝国騎士）

16世紀初期にアルンシュタイン家はフランケン騎士クライスのレーン - ヴェラ･カントンに属していた。

Arnstein - Barby　アルンシュタイン - バルビー（諸伯） Barby　バルビー

マクデブルク近郊のエルベ河畔の城塞バルビーは814年に初めて言及され、961年にブルクヴァートと記されている。974年に皇帝オットー２世はその城塞をクエドリンブルク修道院（シュティフト）に与えた。バルビー周辺のその狭い土地は、遅くとも12世紀末には、アスカニアー家のゲルトルート・フォン・バレンシュテットと結婚していた、アルンシュタインのワルター３世による（1150年頃から1196年頃に）クエドリンブルクの代官職権限の利用によって獲得された。かれはアルンシュタイン - バルビー諸伯の系（バリビー）をつくった。息子ワルター４世は、マクデブルクのレーンとニーンブルクのレーンとアスカニアー家のレーンを統合した。その狭い支配領地は、バルビー、カルベ、ミューリンゲン（伯領ミューリンゲン）、シェーネベックの周辺にあった。それに、ローゼンブルク、ワルターニーンブルク（ワルター - ニーンブルク）、ツェルプスト（1264年 - 1307年）が加わった。1497年に、その領地はマキシミーリアン１世によって帝国伯領に上昇した。1540年に宗教改革が導入された。一時的にではあるが、その一族はヴェストファーレン帝国諸伯合議体に所属していた。1659年にその一族は死滅した。ザクセン - ヴァイセンフェルスとアンハルト -ツェルプストとマクデブルクは､その地域を分割した。行政管轄区バルビーは空位のレーンとして、帝国議会においてアルンシュタイン - バルビーの票（投票権）を行使したザクセン - ヴァイセンフェルスに、1746年にザクセン（クーアザクセン）に、1815年にプロイセンにわたった。ローゼンベルクは、マクデブルクの昔のレーンとしてブランデンブルクにいきついた。残りの所領は、ザクセンのレーンとしてアンハルト - ツェルプストのものとなった。1800年にその領土は約２平方マイル（都市バルビーと若干の村落）を包括していた。行政管轄区ローゼンベルクはかつてのマクデブルクのレーンとしてブランデンブルクにきた。ワルター - ニーンブルク行政管轄区とミューリンゲン行政管轄区は、ザクセンのレーンとしてアンアハルト - ツェルプストにわたった。1807年にザクセンとプロイセンの部分はヴェストファーレン王国に､1815年には再びプロイセンにわたった。バルビーは、そこからザクセン - アンハルトにいきついた。

Arnstein - Ruppin　アルンシュタイン - ルッピン（領地、諸伯）
参照ルッピン。

Arrensis　pagus　アッレンジス・バーグス（アールロン周辺の地域）

Artland　アルトラント

Artner　アルトナー（帝国騎士）
18世紀初頭にアルトナー家はフランケン騎士クライスのゲビルク･カントンに属していた。

Artois　アルトイス（伯領）
ピカルディとフランドルとの間にあるアラス周辺のその地域は、932年に、アラスに住んでいるフランケン諸伯からフランドル諸伯にわたり、1180年ないし1191年には、フランス王フィリップ２世アウグストとのエリザベス・フォン・ヘネガウの結婚の持参金としてフランスにわたった。フランスはそのアルトイスを1237年に面積を変化させ、一傍系の有利になるよう伯領に上昇させた。その傍系一門は旧所有者への帰属に従って（1362年）、1384年ないし1385年にそれをブルグントの諸公にやった。1477年にそれはブルグントの遺産としてハープスブルクにわたったが、フランスとハープスブルクとのあいだで、帰属問題で争われた。後に、ハープスブルクのスペイン領ネーデルラントの一部になった。1659年に一部、1678年に全土がフランスに譲渡されなければならなかった。

Arzt　アルツ（男爵、帝国騎士、雇用人（ペルゾナリスト））
古貴族のティロール一門から脱退したアルツの諸男爵は1718年から1737年まで、雇用人としてシュヴァーベン帝国騎士クライスのネッカー･カントンの構成員であった。

Ascanien　アスカニエン
参照アスカニエン Askanien。

Ascfeldono　marca　アスクフェルドノ・マルカ（アシュフェルト周辺の区域、パーグス・アスクフェルト）

Asch　アシュ（領地）
ベーメンの北西に位置するアシュは元来帝国領邦エガーに所属していた。シュタウフェン朝崩壊後、それは城塞ノイベルクの周辺に形成されている個人領地の中心となった。その領地は1400年にツェドヴィッツの諸君主にわたり、アシュと18の村を包括していた。それはベーメン王の帝国直轄レーンだったので、どの帝国クライスにも属していなかった。1648年のウェストファリア条約でアシュに宗教改革が許可された。1736年と1746年の試み

は不成功に終ったけれど、1806年に首尾よくベーメンに組み入れられた。参照チェコスロヴァキア。

Aschach　アシャッハ

参照ヘンネベルク - アシャッハ。

Aschaffenburg　アシャッフェンブルク（侯領）

アシャッフェンブルクは、最初は５世紀後半のアレマンのキヴィタス（都市）・アスカファとして言及されている。おそらくそれはティーリンゲンの諸公を経由して、いずれにせよカロリング家を経由して、リウドルフィング家にわたった。957年頃シュヴァーベン公リウドルフがそこに参事会修道院（コレギアートシュティフト）ザンクト・ペータ・ウント・アレクサンダーを建設した。982年にアシャッフェンブルクはオットー・フォン・バイエルン・ウント・シュヴァーベンから、オットー２世を経由してマインツ大司教区本部にわたった。後にマインツ大司教区本部はそこに上級役所管轄区を建設した。その修道院は1700年頃、フランケン騎士クライスのオーデンヴァルト・カントンに登録されていた。マインツがフランスに征服された後、1798年にアシャッフェンブルクはマインツ大司教区本部の行政府の所在地となった。1803年に、最後のマインツ選帝侯で帝国宰相でもあったカール・テオドール・フォン・ダルベルクのためにアシャッフェンブルク侯領はつくられた。それは約1700平方キロメートルとともに、アシャッフェンブルク上級役所管轄区、アウフェナウ、ローア、オルプ、シュタットプロツェルテン等のマインツ行政区、そしてヴュルツブルク高司教区本部の行政区アウラを包括していた。1810年に、それは大公領フランクフルトの部局となった。1814年にアシャッフェンブルクはオーストリア、1814年ないし1816年にバイエルンにわたった。

Aschau　アシャウ

参照ホーエンアシャウ。

Aschbach　アシュバッハ

16世紀初頭にアシュバッハ家はフランケン騎士クライスのシュタイガーヴァルト・カントンに属していた。

Aschersleben　アシャースレーベン

参照アンハルト - アシャースレーベン。

Aschfeld　アシュフェルト（ヴェルン下流河畔の右岸のアシャッハ河畔）

Aschhausen　アシュハウゼン（帝国村落）

参照アルツスハウゼン。

Aschhausen　アシュハウゼン（帝国騎士）

16世紀から17世紀まで、アシュハウゼン家はフランケン騎士クライスのオーデンヴァルト･カントンに属していた。1600年頃から1648年頃まで､かれらはシュタインバッハ･オプ･ツァイルとともにシュタイガーヴァルト･カントンにも登録していた。アシュハウゼンは1671年にマインツ大司教区本部の復帰したレーンとして購入によりシェーンタール修道院にわたり、1803年にヴュルテンベルク、その結果、1951年ないし1952年にバーデン - ヴュルテンベルク州にわたった。

Askanien、Ascanien　**アスカニエン（帝国伯領）**

1705年以降プロイセンはアスカニエン所有のためにヴェストファーレン帝国諸伯合議体に入れるよう申請した。

Askanier　アスカニアー家（一門）

アスカニアー家はもともとアレマン - フランケン地方の出身で、アエネアスの息子アスカニウスと神話的に結びついていて､13世紀以降にはアスカニアーと称する一門であった。その一門は、６世紀にハルツ山地の北側のシュヴァーベンガウ地区に移住してきたと言われている。そして初めのうちはバレンシュタット近郊の古い城塞の名称に因んで､そう（バレンシュタットの伯）名乗っていた。推測できる最初のアスカニアー家人物はアダルベルト（1000年頃）であると思われる。婚姻政策が功を奏し､アスカニアー家は､11世紀に様々な遺産の大部分を手に入れた。ゲーロ辺境伯の遺産から、アスカニアー家はシュヴァーベンガウの一部を得た。かれらはそれを自分の土地とつなぎ、アシャースレーベン伯領（アシャリエン）と一体化した。それ以来、かれらはその名称に因んでそう命名した。ビルング家の女子相続人を経由して、オットー･デア･ライヒ（1123年没）は、ビルング家の土地の一部を手に入れた。1060年頃にかれらはザール川を超えて東部へ進出した。アルプレヒト熊侯（1134年－1170年ノルトマルク辺境伯、1140年ないし1142年ブランデンブルク辺境伯）下で、かれらは計画的にドイツ人の東部入植を押しすすめた。1170年には、アルプレヒト熊侯を息子たちが継承した。つまりハインリヒ獅子公の崩壊後1180年にザクセン公の称号とラウエンブルク近郊のエルベ下流に位置するザクセン公領の部分を手に入れたベルンハルトと、東部（ブランデンブク）の新たに獲得した諸領土を手に入れたオットーが継承した。ベルンハルトを、1212年に息子ふたり、アルプレヒト（1260年没）とハインリヒ１世（1212年－1244年）が継承した。ハインリヒ１世は、東ハルツと中部エルベとの間にあるアスカニアー家領を相続し、アルプレヒトは、ラウエンブルク近郊の諸領土とヴィッテンベルク周辺に新たに獲得した領土を手に入れた。ハインリヒはアンハルト家を創設した。アルプレヒトの二人の息子､ヨハン（1285年没）とアルプレヒト２世（1298年没）は、アスカニアー系つまりラウエンブルク（エルベ川下流の右岸のラウエンブルクと、エルベ川上流のノイハウスとハーデルン･ラント）とヴィッテンベルクをつくった。その結果、1226年以降、ブランデンブルクに（1317年ないし1399年までシュテンダルとザルツヴェーデル)､ラウエンブルクに（1689年まで)､ヴィッテンベルク（1422年まで）にアスカニアー

家系が相並んで存在した。ブランデンブルクの土地は、1319年にヴィッテルスバッハ家（1411年にはニュルンベルク城伯であるホーエンツォレルン家に）にわたった。ヴィッテンベルクの土地は1422年にマイセン辺境伯、ラウエンブルクの土地は1689年にヴェルフェン家にわたった。

Aspach　アスパッハ、Asbach　アスバッハ
参照グロースアスパッハ。

Aspach　und　Harrlach　アスパッハ･ウント･ハルルラッハ
参照ホルツシューヘル･フォン・アスパッハ・ウント・ハルルラッハ。

Asperg　アスペルク（諸伯）
テュービンゲン宮中伯の一傍系は、819年にゴツベルト伯からエルザスのヴァイセンブルクにわたり、そしてここから1181年にレーンとして宮中諸伯（プファルツ）にわたっていたルートヴィヒスブルク近郊のアスペルクの名称をとって、1228年以降そう名乗っていた。1308年にアスペルクはヴュルテンベルクに購入された。参照バーデン - ヴュルテンベルク。

Aspremont　アスプレモント（諸伯）
アスプレモント伯（1776年アスプレモント - リンデン）は1792年に伯領レックハイムあるいはレックムを所有のため、帝国議会における帝国諸侯合議体世俗座のヴェストファーレン諸伯に属していた。その伯領はニーダーライン - ヴェストファーレン帝国クライスに配属されていた。1803年２月25日のドイツ帝国代表者会議主要決議の第24条に従って、アスプレモント - リンデン伯は、レックハイム所有のため、バイント大修道院と、オクセンハウゼンから850グルデンの金利子を手に入れた。

Aspremont - Linden　アスプレモント - リンデン（諸伯）
参照アスプレモント。

Asseburg　アッセブルク（諸君主）
ヴィツマー近郊ないしヴォルフェンビュッテル近郊のアッセブルクの諸君主は、1089年にヴィーデキント・フォン・ヴォルフェンビュッテルつまりブラウンシュヴァイク辺境伯エックベルトのミニステリアーレンでもって、初めて証明できる。1200年頃にかれらは帝国ミニステリアーレンに上昇した。1218年以降にかれらは帝国要塞アッセブルクを建設したが､1258年にはそれをブランデンブルク公アルブレヒトに譲渡しなければならなかった。13世紀末にその一族は、パーダーボルン近郊のヒンネンブルク周辺にあるブラーケル諸貴族の土地を結婚により手に入れたヴェストファーレン系と、1437年にハルバーシュタットの諸司教から、ウンターハルツにある領地ファルケンシュタインを、また1509年にマンス

フェルト - クーアザクセンのレーンとしてヴァルハウゼンを手に入れたオストファーレン系に分化した。ヴェストファーレン系の土地は、結婚により1793年にボヒョルトの諸君主（1803年にボヒョルト - アッセブルク諸伯）の系にわたった。

Assenheim　アッセンハイム（領地）
参照ゾルムス - アッセンハイム。

Asterburgi　アスターブルギ（領土（テリトリウム）オスターボルヒ）

Asterga　アスターガ（ヤーデン河口の西のガウ）

Astfala　アストファラ（ハストファラ、オケールとインナーステとの間のガウ）
参照アストファラーウン。

Astfalahun　アストファラーウン（民族名称、オストファラーウン、ハストファラ、アストフェルデ、ファルン、ファルホン、‘オストファーレン’）

Asti　アスティ（都市共同体）
10世紀以降アスティの司教に支配されていたが、その後、この支配から解放された（1095年に市民の市参事会として記されている）、タナロ河畔のアスティは、古代のハスタに従属していた。13世紀にアスティは権力を拡大した。1312年にはローベルト・フォン・アンジューに従属した。幾多の支配者交代後アスティは1387年にオルレアンの諸公、その後フランス、1529年にスペイン（カール５世）そして1575年にはサヴォアにわたった。

Astrahi　アストラヒ（アウストラヒア、オストラエヒェ、オストロー、オストリケ、オスタルゴ、ホストラガ、アスターガランド、オスターゴー、エアスターゲア）

Atoariorum　pagus　アトアリオルム・パーグス（ブルグントにある土地）

Atrebatensis　pagus　アトレバーテンジス・パーグス（アルトイス）

Attems　アッテムス（帝国諸伯、帝国騎士）
1753年から1805年まで、アッテムスの帝国諸伯は、1790年にヴェヒター家に売却された騎士領ヒルルリンゲン、1789年にガーマーシュヴァングのラスラー家に売却されたネッカー河畔のビーリンゲンとともに、シュヴァーベン騎士クライスのネッカー･カントンの構成員であった。

Attergau　アッターガウ（オーバーエスターライヒにあるアッターゼー湖周辺のガウ）

Au　アウ、Aue　アウエ

参照アウアー・フォン・アウ。

Auburg　アウブルク（領地）

1512年にディープホルツの諸貴族はアウエ河畔の突出堡を城塞に改造した。かれらはそれを1521年にヘッセン方伯に封臣レーン（マンレーン）として任せた。ヘッセンは、その一門が絶えた1585年、その城塞をそれに付随した若干の村落（オルトシャフテン）とともに没収した。1588年にアウブルクはヘッセン方伯ヴィルヘルムの非庶出子フィリップ・ヴィルヘルム・フォン・コルンベルクにわたった。その子孫が18世紀初頭に帝国直属地位を得ようとした時、かれらは帝国最高法院（ライヒスカンマーゲリヒト）での訴訟によって、君主の地位をほとんど失った。1801年に２平方マイルの広さのアウブルクはニーダーライン - ヴェストファーレン帝国クライスに属していた。コルンベルクの男爵たちの遺産分与の後、それは1816年にハノーファー、1866年にハノーファーとともにプロイセン、1946年にニーダーザクセンにわたった。

Auegau　アウエガウ（アウガナガッヴィ、アウエ川周辺、グンディンゴンの北部）

Auelgau　アウエルガウ（ジーク川の南のガウ）

Auer von Aue　アウアー・フォン・アウエ（帝国騎士）、Auer von Au　アウアー・フォン・アウ

フランケン騎士クライスのアルトミュール・カントンに属していたアウアー・フォン・アウエ（ツー・ゲーバースドルフ）家は17世紀半ばに消滅した。

Auer von Herrenkirchen　アウアー・フォン・ヘレンキルヒェン（帝国騎士）

1680年頃から1780年頃までアウアー・フォン・ヘレンキルヒェン家はフランケン騎士クライスのバウナッハ・カントンに属していた。

Auerbach　アウアーバッハ（帝国騎士）

17世紀末にアウアーバッハ家はフランケン騎士クライスのオーデンヴァルト・カントンに属していた。

Auerochs　アウアーオクス（帝国騎士）

1750年頃までアウアーオクス家はフランケン騎士クライスのレーン - ヴェラ・カントン（アウアーオクス・フォン・オエプファースハウゼン）に属していた。

Auersbach　アウアースバッハ（帝国村落）

Auersperg　アウアースペルク（帝国諸男爵、帝国諸伯、帝国諸侯）

1220年以降、ケルンテン諸公のミニステリアーレンとして裏付けできるクライン一門は、アウアースペルクに因んで、そう名乗った。15世紀半ばにその一門は２つの主系に分化した。それは1530年に帝国男爵、1630年に帝国諸伯に上昇した。1653年に兄系の弟系は帝国諸侯位を獲得し、1654年には獲得したシュレージエンの諸領地つまりミュンスターベルクとフランケンシュタインを所有するため、ミュンスターベルク公の称号を手に入れた。領地テンゲンは1664年にフォアデアエスターライヒの領邦等族だったが、しかし同時にシュヴァーベン帝国クライスにおける議席と投票権をもつ、侯化した帝国伯に上昇した。1791年にシュレージエンにあった土地はプロイセンに売却された。その後、一族の全構成員は皇帝から帝国諸侯位をもらった。その際、長子に生まれた者は、1604年に獲得していたゴットシェー公の称号も手に入れた。

Aufenau　アウフェナウ（帝国直轄領）

一時的にリスベルクの諸君主にわたったゲルンハウゼン近郊のアウフェナウにおいて、ゲルンハウゼンの上級林務官（フォルストマイスター）の一族は、14世紀半ば以降、小さな、とは言え、後には帝国直属として残る特別領地アウフェナウをつくったと思われる。しかし、それは1781年にマインツ大司教本部に売却されなければならなかった。マインツ大司教本部はそれを上級役所管轄区（オーバーアムト）オルプと統合した。ヘッセン参照。

Aufhausen　アウフハウゼン（帝国騎士領）

アウフハウゼンはコヒャー・カントンに属していたが、オエッティンゲンにわたった。

Aufkirchen　アウフキルヒェン（帝国村落、帝国都市）

ディンケルスビュール近郊のアウフキルヒェンは、1188年にブルグム・ウフキルヒェンとして出現した。1251年にシュタウフェン家はそこに保護管轄区（ブフレーゲアムト）と税関をもっていた。コンラート４世は10分の１税の権利をオエッティンゲン諸伯に担保として与えた。1290年にその村落は都市と呼ばれていた、しかし、村長職はニュルンベルクの諸城伯、1295年以降はオエッティンゲンの諸伯に担保として与えられていた。1334年ないし1367年に更新された担保は、もはや抜け出されることはなかった。宗教改革導入後（1558年）、アウフキルヒェンは、オエッティンゲン - シュピールベルクの上級役所管轄区の中枢となった。帝国直属地位を剥奪され、その村落の地域はバイエルンにわたった。

Aufsess　アウフゼス（諸男爵、帝国騎士）

1114年に初めてアウフゼスの貴族諸君主がオーバーフランケンのエーバマンシュタット近郊に出現した。1550年頃アウフゼスの男爵たちはフランケン騎士クライスのオーデンヴァルト・カントンに属していた。それと並行して、かれらは16世紀初頭以降（ケーニックスフェルト、フライエンフェルス、ヴァイハー、ナイデンシュタイン、カイナハ、シュテッヒェンドルフ、トルパッハ、メンガースドルフ、オーベルンゼースとともに）フラン

ケン騎士クライスのゲビルク･カントンの構成員であった。それ以外に、かれらは18世紀末にはバウナッハ･カントンに所属していた。参照バイエルン。

Auga　アウガ（ヴェーザー河畔のヘクスター周辺のガウ）

参照アウエガウ Auegau

Augau　アウガウ

参照アウガ Auga、アウエガウ Auegau。

Augia（アルギア、ヴァリス、タール、パイス・ドゥ・アウゲ）

Augsburg　アウクスブルク（高司教区本部）

司教区アウクスブルクは、これといった起源の証明史料はないにしても、４世紀には既に存在していた。それは教会行政区域ミラノ（539年まで）、次にアクヴィレーヤに組み込まれていた。450年にゼーベン、後にブリクセンへ移された。メロヴィング家の治下（709年）でそれは新たに創設され（司教ヴィクテルプが738年、司教ロツィロが745年）、そして（遅くとも829年には）教会行政区域マインツに編入されたと思われる。800年頃、733年から748年にバイエルン地区のために創設された司教区ノイブルク-シュタッフェルゼーは、その中に埋没して消滅した。それはイラー川（ドナウ川の支流）からイルム川（ザール川の支流）とヴァルヒェンゼーまで、同様に北はフォイヒトヴァンゲンまでの広さであった。高司教区本部の、決して少なくはない点在していた土地は、とくにオーバーアルゴイでは、イラー川とレヒ川との間にあった。1258年にディリンゲンがそれに加わり、高司教区本部の中心になった（15世紀初頭以降首都、1544年に神学哲学の大学創設）。12世紀にシュヴァーベッグ（シュヴァーベック）の諸君主、1167年以後はシュタウフェン家に権限が与えられ、最終的に1273年にルードルフ・フォン・ハープスブルクに譲渡された代官職（フォークタイ）から、徐々に、その高司教区本部は離れた。早くも1156年以降は都市アウクスブルクに対する支配権はなくなった。1802年ないし1803年に、その高司教区本部は、43平方マイル（2365平方キロメートル）の面積、住民10万、16看護施設、１領主の財務管理の役所、ディリンゲン市とフュッセン市、司教座聖堂参事会の19の役所、年間45万グルデンの収入とともに、世俗化され、主としてバイエルンに併合された。その司教区は、1817年に教会行政区域ミュンヒェン - フライジングに組み込まれ、1821年にローテンブルク、ブリクセン、コンスタンツとの関係で新たに書き改められた。

Augsburg　アウクスブルク（帝国代官の直轄地域）

1273年にハープスブルクのルードルフは代官直轄地アウクスブルクをレーンに与えられたが、それを帝国領にした。これを機に、かれは東シュヴァーベン（とりわけゲルストホーフェン）の帝国領を帝国代官直轄地域アウクスブルクとオーバーシュヴァーベンに統合した。1426年から帝国代官直轄地アウクスブルクは都市アウクスブルクの影響下に入った。

Augsburg　アウクスブルク（帝国都市、帝国代官都市）

ローマ人によるレティア征服後、紀元前15年と西暦14年－16年のあいだにヴェルタッハ川（アウクスブルク-オーバーハウゼンに位置する）の左岸、重要な街道の交差点に、ローマ軍団の宿営地が存在していた。その後、45年頃レヒ川とヴェアタッハ川とのあいだの山の尾根に、アウグスタ・ヴィンデリクムが、ローマ行政区域レティアの前面地（フォアオルト）として建設された。それは、その行政区域の分割後もレティア行政区域の前面地「ゼクンダ」としてのこった。そこの住民のキスト教化は、司教座聖堂の初期キリスト教のバジリカ（初期キリスト教会堂）と聖アフラの殉教死により裏付けされている。開拓は一貫して確実になされた。アウクスブルクの諸司教は４世紀には雇用されており、738年以降は立証されている。807年にその司教座聖堂は聖別され、933年から973年には、832年にアウグストブルクと名づけられた村落が、その聖堂を囲むようにして建設された。1156年のフリードリヒ１世バルバロッサの証書は、司教の権限と市民の権利の範囲を互いにはっきり定めた。1167年ないし1168年に、フリードリヒ１世バルバロッサは司教座本部代官職と流血裁判権をアウクスブルクに譲渡した。1250年に市民は司教に抗して蜂起した。シュタウフェン朝崩壊後、その代官職は1273年にハープスブルクのルードルフから帝国にわたった。1276年にアウクスブルクはハープスブルクのルードルフが追認した独自の都市法をつくった（帝国都市）。1316年に皇帝ルートヴィヒ（バイエルン公）は、彼を支援したアウクスブルクに、完全な帝国直属地位を保証した。その帝国都市に所属した農地面積は極めて少なかった。1368年にツンフトは都市行政参加実現のために奮闘した。手工業と遠隔地商業（フッガー家、ヴェルザー家）は、アウクスブルクが重要なヨーロッパ商業都市に上昇するのを支援した。1500年頃アウクスブルクは人口約１万8000人を数え、1523年ないし1524年に宗教改革を導入し、30年戦争で著しく損傷した。1803年にはまだ帝国都市として維持され、1803年２月25日のドイツ帝国代表者会議主要決議第27条によって、高司教本部の土地と帝国修道院ザンクト・ウルリヒ・ウント・アフラの土地でもって補償され、約１平方マイルの広さのアウクスブルクは、1805年ないし1806年に、バイエルンにわたった。

Augsburg, Sankt Ulrich und Afra　アウクスブルク、ザンクト・ウルリヒ・ウント・アフラ（帝国修道院）

殉教者アフラはアウクスブルクに生きていた女性であるが、304年にその地でキリスト教徒として処刑され、今日のザンクト・ウルリヒス・ウント・アフラ教会堂のローマ人墓地に埋葬された。早くも皇帝ピピンは豊かな土地をもつザンクト・アフラ修道院を構想していた。そして800年頃には聖女アフラ墓地には修道院が建っていた。この修道院が1012年ないし1013年に司教ブルーノによってベネディクト会修道院と取り替えられ、ウダルリヒ（ウルリヒ）司教（923年 - 973年）の名がつけられるまでは、アウクスブルク司教は、初めは同時に司教座教会参事会員修道院ザンクト・アフラの大修道院長でもあったと思われる。それは1156年に教皇の保護下、1323年には皇帝ルートヴィヒ４世（バイエルン公）により皇帝の保護下におかれた。また1577年にその修道院は皇帝ルードルフ２世から帝国直属地位とドイツ帝国議会での議席を得た。このことは、十有余年に亘る訴訟の後、1634年

になってはじめて、損失補償と引換えに、アウクスブルク高司教区本部から公認された。この判決後、その修道院はさらにアウクスブルク帝国都市から攻めたてられた。その大修道院長は帝国議会ではライン高位聖職者に所属していたが、シュヴァーベン帝国クライスを代表していなかった。18世紀半ばから、その修道院は莫大な負債を抱かえた。修道院の散在していた土地は修道院廃止時、1802年ないし1803年にアウクスブルク帝国都市とバイエルンに、1805年ないし1806年にアウクスブルクとともに完全にバイエルンにわたった。

Augstgau　アウグストガウ（ガウ）

Augustenburg　アウグステンブルク
参照シュレースヴィヒ - ホルシュタイン - アウグステンブルク。

Augustgouwe　アウグストゴウヴェ（オウゲストゴウヴェ　Ouguestgouwe、フィニス・アウグスティンジス　finis　Augustinsis、**バーゼル近郊のカイザーアウグスト周辺のガウ**）

Auhausen　アウハウゼン、Ahausen　アーハウゼン（**帝国村落**）
参照アーハウゼン。

Aulenbach　アウレンバッハ（帝国騎士）
1550年頃にアウレンバッハ家はフランケン騎士クライスのオーデンヴァルト･カントンに属していた。参照コッツヴィツ･フォン･アウレンバッハ。

Aulendorf　アウレンドルフ（領地）
シュッセン河畔のアウレンドルフは935年に初めて出現した。1381年にそれはフリードリヒ３世が上級裁判権を授与していたケーニヒスエックの諸君主のものであった。1629年にそれは（シュヴァーベン帝国クライスに所属していた帝国直属の）帝国諸伯ケーニヒスエックの居所となった。1806年それはヴュルテンベルクのものになり、そこを経由して、1951年ないし1952年にバーデン - ヴュルテンベルク州にいきついた。

Aulfingen　アウルフィンゲン（領地）
1776年に領地アウルフィンゲンは、ヴェッセンベルクの諸男爵からフュルステンベルクの諸侯にわたった。参照ヴェッセンベルクツー、バーデン - ヴュルテンベルク。

Aura　アウラ（帝国騎士領）
リーンエックの北に位置するアウラは、フランケン騎士クライスのレーン - ヴェラ･カントンに属していた。参照バイエルン。

Aurach　アウラッハ（帝国騎士）
16世紀初頭にアウラッハ（ツー・ピールバウム）家はフランケン騎士クライスのシュタイガーヴァルト・カントンとゲビルク・カントンに属していた。

Auriicherland　アウリィヒャーラント

Auritz　アウリツ（男爵、帝国騎士）
18世紀にアウリツの諸男爵は、デネンローエ、オーバーシュヴァーニンゲン、オーバーシュタインバッハ、ロスバッハ、シュテューバッハ、マルクトタッシェンドルフとともに、フランケン騎士クライスのアルトミュール・カントンに属していた。参照バイエルン、アイヒラー・フォン・アウリツ。

Auritz　アウリツ
参照アイヒラー・フォン・アウリツ。

Auschwitz　アウシュヴィツ（公領）　ポーランド語でオシフィエンチム。
クラカウ近郊のアウシュヴィツは1327年より以前にチェコ分割によって生まれ、1327年にはベーメンのレーン主権下に入った公領アウシュヴィツの首都であった。1457年にそれはポーランドに売却された。1521年にアウシュウィッツ - ザトーアの諸公は滅亡した。1772年ないし1773年にガリチアとともにオーストリアにわたり、1818年以降ドイツ連邦に属していた。1920年にそれはポーランドに戻ってきた。

Austervia　アウスターヴィア（Glesaria　グレザリア、アメランド島）

Autenried　アウテンリート（帝国騎士）
1790年頃にアウテンリート家はフランケン騎士クライスのオーデンヴァルト・カントンに属していた。

Autenried　アウテンリート（帝国騎士領）
1368年初めて公文書で言及されている、ギュンツブルク近郊のケルツ河畔ないしケルツバッハ河畔のアウテンリート（人名でウート）は、ブルガウ辺境伯領内で、高司教区本部アウクスブルクからのレーンであった可能性のある一領地の中心であった。その領地にはオクセンブロンとアンホーフェンも属していた。それはウーテンリート（アウテンリート）のミニステリアーレンからビューエル（ビュール）の諸君主へ（1368年）、1509年にはレヒベルク家、1599年には高司教区本部アウクスブルク、1649年にラピエルの騎兵総長、1684年にラピエルの寡婦と結婚したヨーゼフ・アントン・ラッサー・フォン・デア・ハルデン、1798年にラスベルク家、そして1805年にはレック家にわたった。1806年にそれはバイエルンにわたった。

Auwach　アウヴァッハ（帝国騎士）

18世紀にアウヴァッハ家はライン騎士クライスに属していた。

Avalos　アヴァロス（帝国侯）

1704年にセサーレ･ミケランジェロ･デ･アヴァロスは帝国諸侯に上昇した。

Avulla　アヴラ（領地）

1714年に帝国は領地アヴラを没収し、それをマルキーゼ・マラスピナ - ポーデンツァナに与えた。

Ayrer zu Rosstal　アイレーア･ツー･ロスタール（帝国騎士）

17世紀後半にアイレーア･ツー･ロスタール家はフランケン騎士クライスのオーデンヴァルト･カントンに属していた。